

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2015年7月 No.19

高校生交換留学プログラム アジアから高校生来日



今号の内容

- ◇ 平成 27(2015) 年度を迎えて
- ◇ 大学院留学アジア奨学生
新たに3名が仲間入り
- ◇ 高校生交換留学プログラム
「日本の文化を学びたい!」ーアジアから高校生来日
- ◇ 講演会
- ◇ 第9回かめのり賞 募集案内
- ◇ かめのりコミュニティ仲間からの便り(特集号)

平成 27(2015) 年度を迎えて

3月下旬にアジア6ヵ国から6名の高校生が来日し、また4月には新たに3名の大学院留学アジア奨学生が加わり、平成27(2015)年度がスタートしました。

本年度は、8月にアジアからの受入生と日本人高校生が集まり、アジアについて考える「かめのりスクール2015」を新たに実施します。高校生が、決められたテーマについて共に活動し、意見交換をするほか、留学の中間地点となる受入生はこれまでの留学生生活を振り返り、今後、何を目標にどのように過ごすかを考える機会にもなります。

この他にも、にほんご人フォーラムがマレーシアで開催されるのをはじめ、ISAKサマースクール、ベトナムの中学生日本語キャンプ、韓国での短期交流プログラム、そしてカンボジアスタディツアーの実施を予定しており、この夏は、アジアの若い世代が交流し、言語を学び、異文化を体験する事業が多く行われます。さらに秋に

はタイとの中学生交流プログラム、来年2月は、国内外の大学生がアジアの未来を考えるかめのり地球青少年サミット(KEYS)も開催を予定しています。

本年度も、関係者の方々のご支援ご協力のもと、アジアの若い世代の相互交流、相互理解の促進、グローバルに活躍する人材の育成のために前進していきたいと考えています。

これらの活動の様子は、随時、本誌にて報告していきます。



写真は、昨年実施した事業の様子です

大学院留学アジア奨学生 新たに3名が仲間入り

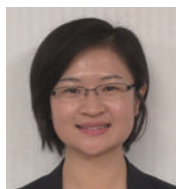
平成 27(2015) 年度採用の奨学生が決定し、4月4日(土)、新奨学生への授与式・オリエンテーションと修了生をお祝いする会を行いました。役員をはじめ、選考委員やOB、OGも出席し、新たな出会いと再会を喜び、大学院での研究の話のみならず、日本の生活や今後の進路について、さまざまな話題に話がひろがり、盛会のうちに懇談会を終えました。



左) 修了生には記念として思い出のアルバムを贈りました
右) 新奨学生へ証書を授与



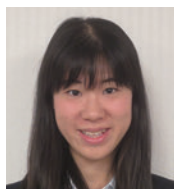
新奨学生の紹介



周 静(シュウセイ)
中国
京大大学院教育学研究科
(博士後期)

私は教育科学専攻で、現在「日本語学習者のコミュニケーション能力を促す授業デザインに関する実証的研究」をテーマに研究を進めています。今まで、知識伝達型授業が主流である中国の日本語教育において、ピア・ラーニングというアクティブな授業手法を導入し、学生にどのような有効性を与えるかを探求してきましたが、博士課程では、授業のデザインにとどまらず、学生の学習成果(特にコミュニケーション能力)の定着まで目指しています。

この度、かめのり財団の奨学生に選んでいただき、研究や実践に打ち込めるようになり、心から感謝しております。私自身は留学の経験から異文化交流の機会に恵まれてきたと言えます。その中で、視野を広げることができ、人生の可能性も豊かになったと言っても過言ではありません。そのため、将来、日中交流・理解はもちろん、世界中の相互理解を深めていくために最大限の力を注ぎ、協力していきたいと思っております。



蔡 睿(サイエイ)
中国
名古屋大学大学院法学研究科
(博士前期)

私は2015年春かめのり財団の新しい奨学生になりました。これからの2年間、中日両国の労働者派遣制度について研究する予定です。中日両国の労働現状、処遇問題を分析する事によって、労務派遣制度及びそれに対する法律規範の意義を明らかにし、それにふさわしい改善策を探る事を目的にしています。

これから、かめのり財団の奨学生として、学業上は精一杯努力し、研究に心を込めて論文を完成させたいと考えています。生活上では中日友好の架け橋になると決意し、いろんな中日友好交流活動に参加したいと思います。

中日経済交流が頻繁に行われている現在、日本で「研修生」として働く中国人は増加しつつあります。一方で、中国に進出している日本企業は数多くあり、そこで働いている日本社員もまた膨大な数を占めていると考えられます。私は卒業してから労働法の専門家になって、中日両国の労働者のために研究成果を生かしたいと心より願っています。



金 ボラ(キムボラ)
韓国
東京大学大学院経済学研究科
(修士)

私は、開発経済学を専攻分野としており、途上国の人々のリスクファイナンス能力を改善することで彼らが抱えている貧困問題を削減することを目的とし、途上国の最貧困層を対象とするマイクロファイナンス、特に彼らに保険を提供するマイクロインシュランスのインパクト評価を行おうと考えています。

かめのり財団の奨学生として、様々なバックグラウンドを持つ方々との交流を重ねることで自分の視野を広げ、「アジア人」という自分のアイデンティティを忘れることなく、1人の研究者としてしっかりと責任感を持って研究を進めていきたいと思っています。また、研究だけでなく、留学という機会を最大限に活かし、より充実した生活を送れるように頑張ります。

将来は、開発経済学や留学生という自分のスペシャリティを活かし、世界の最貧困層が抱える貧困・教育・医療・ジェンダーなどの社会問題の解決に貢献できるエコノミストとして、国際機関で活躍したいです。

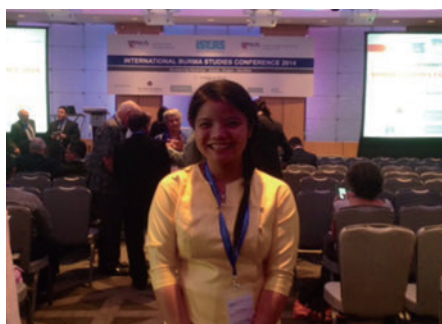
修了生からのことば

未来をつなぐ修了生たち。4月からそれぞれの道を歩み始めました。



Htet Htet Nu Htay (テツテツヌティー) / ミャンマー
引き続き、東京外国語大学大学院総合国際学研究科(博士後期)に在籍

「奨学生としての3年間」



International Burma Studies
Conference 2014, Singapore にて

私にとって『かめのり奨学金』は研究の支援だけではなく、今後の研究生生活のためにも希望と力を与えてもらいました。私の研究は発展途上国におけるソーシャル・メディアの使用とその影響を分析することです。研究対象は私の母国であるミャンマーで、2011年の民主化以降の社会変化を調査し、考察を行っています。奨学生として採用された3年間に私は現地調査を4回行いました。そして、6回の学会発表(国内5回、国際1回)と学会誌に論文投稿が1回できました。私の研究分野はソーシャル・メディアであるため、先行研究となる文献の大多数は2010年以降に発行された文献でした。私は書籍を読む際、本の中にメモを取る習慣があるため書籍は必ず購入して読むようにしています。

2012年初めての夏の研修交流会で
時計作りを体験(長野県諏訪市)



奨学金を受けられるからこそ、最新の書籍を購入できましたし、興味がある学会にも聴講に行くことができました。私が購入した膨大な書籍は今後の研究にも、帰国後、ミャンマーで知識を広めるためにも役に立つことは間違いありません。

財団の行事への参加は、日本について理解を深めるきっかけとなりました。財団の研修旅行では、地方を訪ねる機会を得られ、財団主催のフォーラムでは、知識と経験豊かな役員の方々と交流することができました。私はかめのり財団から頂いた知識と楽しい思い出、応援の言葉を原動力にしながら博士論文を書き、その後、日本とミャンマー、両国の社会に貢献できる人材になることを目指して頑張り続けます。



張 頌 (チョウセキ) / 中国
2015年3月 大阪大学大学院言語文化研究科 修士号(日本語・日本文化)取得

「日本語教育を通して日中両国の架け橋を目指す」

大学院では、過去・完了を表すとされる日本語の「夕」と中国語の「了」の対照的研究をしていました。この2つの表現は日本語と中国語の学習者にとって非常に習得しにくい表現だと言われています。これからは、この2年間の研究の成果を実際の教育現場に応用し、実践を通して更に研究を進めていきたいと思っています。

かめのり奨学生としての2年間を振り返ると、1人の留学生として得るものが多かったです。授与式でドキドキしながらスピーチをしていた時のことはまだ記憶に新しいです。最初はこれからの2年間はどうか分かりませんでした。しかし、その後の夏の研修会とかめのりフォーラムですぐ先輩方と友だちになりました。夏の研修会で、先輩方から様々なご指摘をいただき、すぐ自分の研究に役立てることが出来ました。かめのりフォーラムでアジア各

昨年の夏の研修交流会で、陶芸体験。
真剣に取り組みました(徳島県鳴門市)



国からの学生たちとコミュニケーションすることができ、また様々な分野の最前線で活躍されている方々のお話を伺うことも出来ました。この多くの活動を通じて、日本とアジアに対して再認識ができ、かめのり奨学生になれたことを本当に幸せに思っています。

日本に来て7年経ちましたが、日本語教師になりたいという夢はずっと変わらずに持ち続けています。5月に中国に帰国し、日本語教師の仕事を始めたいと思います。また新しいスタートなので、ワクワクしながらも緊張と不安も強いのですが、この日本での7年間、かめのり奨学生としての2年間の経験を活かして、日本と中国の架け橋になるために、どんな困難があっても胸を張って日本語教育の道を歩んでいきたいと思っています。



修了式にて

OBOGからの便り

近況報告と心にある思いを綴ってくれました。



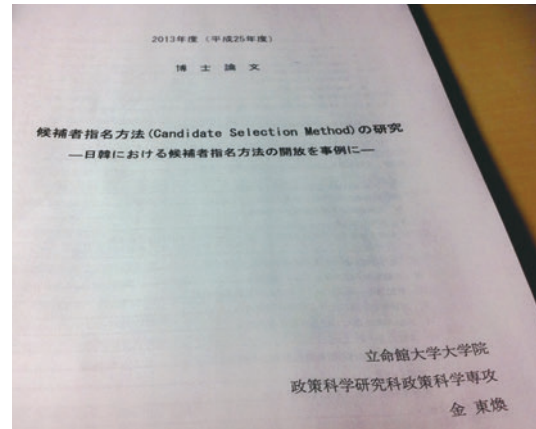
金 東煥 (キムドンファン) / 韓国
2008年～2010年 かめのり財団奨学生
現在、立命館大学地域情報研究センター 客員研究員

「かめのり財団と私」

日本留学という夢が現実になったのは、かめのり財団のお陰でした。2008年、かめのり財団の奨学生として日本に来ることになったからです。そのお陰で、私は立命館大学大学院国際関係研究科、政策科学研究科で学問と真剣に向き合い、2014年3月に政策科学博士号を取得することができました。現在は、立命館大学地域情報研究センターで、研究を進めています。

私の研究分野は、政治過程論、特に、政党の候補者指名方法です。政治過程論とは、政治家、政党、官僚、利益団体、市民などの政治ファクターの相互作用の動態を記述し、説明するアプローチのことです。私の研究は、近年、政党研究、選挙研究の双方において注目を集めている候補者選定過程について、日韓両国における事例を追

う記述的研究です。候補者選定を一部のエリート(党幹部)の手から人々(一般党员や一般有権者)の参加するプロセスにゆだねることが民主主義の要請であると単純に理解する向きもあります。また、各国・各政党の候補者選定の手続きについて比較制度論的に研究している研究者の中には、候補者選定過程に参加する人々が拡大することを肯定的にとらえ、これを無批判に「民主化」と称する者も出てくるようになっていきます。私は、このような単純かつ楽観的な見方に満足せず、候補者選定過程を開放化に向けて動きだした近年の韓国の民主党と日本の自由民主党の候補者選定過程の実際を追うことで、両国の両党の中で、何が起きているのかを精密に記述分析しました。



立命館大学大学院
政策科学研究科政策科学専攻
金 東煥

博士号を取得した論文

私は、韓国で政治を学びました。そして、日本で世界を学んでいます。世界の学生たちと議論を交わしながら、思想を共有し、相違を尊び、その相違を認めていく。日本は私にとって新たな世界であり、機会になりました。このような大切な機会を提供してくれたかめのり財団に心から感謝しています。



尹 一喜 (ユンイルヒ) / 韓国
2009年～2011年 かめのり財団奨学生
現在、東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科 (博士後期)

「かめのりファミリーと留学生活」

誰もが進路に悩む時期に、偶然に見たかめのり財団の奨学生募集案内が日本留学のきっかけでした。奨学生として採用され、大学院の入学まではスムーズでしたが、問題はそこからでした。韓国と類似している部分が多い日本で先進的な高齢者福祉を学びたいと、漠然と考えていたため、研究テーマを絞るだけでも大変なことでした。研究テーマを決めて、調査を実施し、その結果を論文にまとめて学会誌等に投稿、そして、学会で報告をすることの繰り返し研究活動の主な部分となります。今は流れ作業のように行っていますが、その時はアポイントメントの電話をするだけでも勇気がいりました。

このように研究活動をしながらかめ落ち込んだことも、嬉しかったことも、毎月のかめのり財団へのレポートに書いていました。そうすると、必ず西田事務局長や職員の菊地さんがあるとき

はお母さんのように、ある時はお姉さんのようにコメントをしてくれました。それが何よりも自分の励みになり、もう一歩進もうと思えるような動機づけにもなりました。また、レポートには書けない、研究以外のことについても相談することができ、とても心強く感じました。一人ぼっちだと思いがちな留学生活の中で、家族のように身近で相談に乗ってくれる人がいるという安心感は言うまでもありません。

以上のように2年間支えて頂いたおかげで無事に博士前期課程を修了し、現在は、非常勤講師とリサーチアシスタントをしながら、博士後期課程に在籍しています。学業と仕事を両立するということは、学業だけに専念していた時とはまた違う大変さがありますが、いつもバックに「かめのりファミリー」がいることを考えると、自信をもって前に進むことができます。



昨年、韓国で働く同期生と日本で再会、職員と懇談

これからは、日本と韓国をつなぐ架け橋のような立場にあることを認識しつつ、いま日本に来ている留学生の何か役に立てることがあればやっていきたいと思っています。

高校生交換留学プログラム

「日本の文化を学びたい！」—アジアから高校生来日

3月18日(水)、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイの6カ国から6名の高校生が来日しました。北は北海道から南は熊本の各地域で、それぞれホストファミリーとともに生活をしながら、高校へ通っています。

来日後の懇談会では、自己紹介とともに留学の目標を発表し、改めてこれから始まる日本での留学の目的を心に刻みました。来日して、3ヶ月が経ち、言葉の壁や習慣の違いに戸惑いながらも、学校では友だちも増え、周囲の方々に支えられながら、異文化での生活を楽しんでいきます。

日本のイメージは？

■桜がきれい。ノーベル賞をもらった人がたくさんいる。■日本はあたたかくて親切な人が多く、きれいな国。■古い伝統も維持しながら、発展している国。■教育の質と基準が高い。

留学の目標は？

■流ちょうな日本語を話せるだけでなく、聞くことも読み書きもしっかり学びたい。■異なる国同士の境界をなくし、お互いに理解しあいたい。■この留学のあと、また日本に来たいので、日本語を一生懸命勉強する！

将来の夢は？

■同時通訳など韓国と日本のために働きたい。■日本語教師になりたい。■文化交流や相互理解を通じて日本とインドネシアの架け橋になりたい。■より多くの文化を知るために色々な国を訪ねてみたい。



来日後の懇談会で、それぞれ留学の目標を発表

講演会

「異文化理解の必要性」を主なテーマにした王敏理事(法政大学教授)の講演会を次のとおり開催しました。開催団体から講演会実施についての声を寄せていただきました。

「講演会を終えて」

報告：新潟・ハルビン友好市民の会
高橋 千代子氏

本年2月、新潟市で新潟・ハルビン友好市民の会主催「異文化交流の知恵 驚きから理解へ」と題し、講演会を行いました。講演会は、「東アジア隣国との友好関係には民間交流が大切だ」との呼びかけに、主催団体の会員と一般市民が参加しました。そこで、地元の学生による異文化交流体験発表の場を前半に設け、その後、王敏理事より基調講演を行っていただきました。

基調講演の冒頭、「驚きから理解、そして楽しみへ発展させましょう」と、王敏理事が講演のテーマをもう一步前進させる提案から始まり、参加者が身近に感じる文化：漢字、行事、習俗など、中国より伝来した文化が長い年月をかけて日本に自然に定着し、その幾つかが中国へ改めて伝わっている「繋がり」について丁寧にお話しになる様子、そして、参加者が熱心に耳を傾けていたことが印象的でした。

参加者は、講演から、文化における共通点を通じた相互理解の必要性を理解し、「双方向交流による共存共栄の必要性」「文化交流の深さを認識」「お互いを知ることの大切さ」などの感想を寄せました。

「宮沢賢治の異文化理解を学ぶ」

報告：かわさき国際交流民間団体協議会
会長 山本 忠利氏

3月21日(土)に王敏先生の講演会を(公財)かめのり財団のご支援で開催しました。神奈川県川崎市内の国際交流事業にかかわる民間団体で構成する協議会の主催で、大きなテーマは「わくわくする国際交流を考える」。お願いした講演テーマは「新しい異文化理解活動の形と役割」です。王敏先生が宮沢賢治の研究者でもあることを伺い、宮沢賢治との関わりにも触れていただければとお願いしました。

講演の前に中国四川省の変面ショーを用意したこともあり、王敏先生は中国のお面芸能の発祥に触れ、それがやがて日本に伝承されたこと、中国では消滅した伎楽が日本では生き続けていることなど、古代、文化に国境のなかったことを紹介しました。次に宮沢賢治が西遊記から沢山のことを学びそれを作品に活かしたことを、作品に現れた具体例を挙げながら話されました。宮沢賢治の作品に出てくる沢山の動物たちと人間の会話を異文化理解活動と位置づけるお話は興味深く、賢治が日本・中国・インドと続く世界を常に視野にいれて作品を書き続け、異文化に学び、異文化と共存しようとした生き方は、今日にも通ずる貴重な視点であることを学ぶことになりました。

多くの聴講者が熱心に耳を傾けていました
(新潟・ハルビン友好市民の会)



山本会長へ王敏理事の著書を寄贈
(かわさき国際交流民間団体協議会)

第9回かめのり賞 募集案内

昨年度、第8回かめのり賞表彰式

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰します。これまでに6個人・64団体を表彰しました。

本年度も募集の受付を開始しましたので、多くの方からのご応募をお待ちしております。

(応募締切：9月11日(金)必着)



対象個人/団体の資格

- ① NPO (非営利団体)、ボランティアグループ、個人であること
- ② 5年以上の活動歴があること
- ③ 日本とアジア・オセアニアの架け橋となる活動を目的としていること
- ④ 過去5年間、かめのり賞の表彰を受けていないこと

対象となる活動

日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした次のような活動

- ① 国際交流・協力にかかわる活動
- ② 多文化共生にかかわる活動
- ③ 国際貢献に携わる人材を育成する活動

選考基準

次の点を総合的に評価します。

- ・これまでの活動における貢献度
- ・他団体との有機的な連携や協働、地域との結びつき
- ・今後の活動への期待と将来の活動の可能性

さらに、次の2点については加点要素となります。

- ・アジアの国、地域、人々を中心とした活動展開
- ・若い世代の相互交流や人材育成

詳しい募集要項や応募用紙は、ホームページよりダウンロードできます。

第9回かめのり賞募集要項

<http://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>

表彰者のことば

「第8回かめのり賞を受賞して」

「小さな美術スクール」主宰 笠原 知子氏
 絵を描きたくても、絵を描く材料も機会もないカンボジアの子ども達への無料の美術スクール活動を始めて約8年が経過しました。この度、これまでの活動を評価いただき、受賞できましたことを大変嬉しく思っております。奨励金は、「一度きりの子どもの時」をひたむきに生きる子ども達の作品を学校施設内にギャラリーを作り、子ども達の未来の扉を開く支援に繋がる環境を整備するために活用させていただきたく思っております。

今後の予定

- 7月 国際交流事業助成(一般公募) 交付式・ワークショップ
ISAK サマースクール 2015
ベトナム中学生日本語キャンプ 2015
- 8月 第8期 高校生短期交流プログラム(派遣・韓国)
にほんご人フォーラム 2015(マレーシア)
第2回 高校生カンボジアスタディツアー
かめのりスクール 2015
- 9月 大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会
- 10月 第7回中学生交流プログラム(受入・タイ)

≪ 編集後記 ≫

仲間からの便りにも見られるように、自分ではできないかもしれない思いながらも、勇気を持って行動したことが、想像していなかった物事、人との出会い、次のチャンスをとらえる機会を得ることにつながる。年齢に関係なく、いつ何時も挑む心を忘れずにいたい。弊財団は来年10周年を迎える。次の10年に向けて挑んでいきたい。(菊地)

発行人 / 西田 浩子

編集 / 菊地 佐智子

デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)

印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694

FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp

URL : <http://www.kamenori.jp/>